

建築学縁祭 Rookie 選

最優秀に吉村さん(武蔵野美大3年)



最優秀賞に輝いた吉村優里さん(右)

総合資格(東京都新宿区、岸隆司代表取締役)が運営する総合資格学院と建築学縁祭学生実行委員会は、建築系イベント「建築学縁祭」の一環として「Rookie選」を開いた。4日、新宿区の工学院大学新宿アトリウムで開いた公開講評審査会では、審査対象の10作品を制作した学生によるプレゼンテーション、質疑応答を経て、吉村優里さん(武蔵野美術大3年)の「日常のうらがわを」が最優秀賞に輝いた。建築学縁祭は、首都圏の建築系学生の交流を兼ねて思い出になるようなイベントとして企画した。学生が作品を競い合うRookie選とともに2回

総合資格学院、学生実行委

4日、主催者を代表して総合資格の安島才雄常務執行役員営業本部長が「コロナ禍で活動制限がある中、少しでも学生の皆さんに発表の機会をつくりたいという思いでイベントを立ち上げた。きょうは遺憾なく力を発揮してほしい」とあいさつした。Rookie選では、524の応募作品のうち、1次審査を通過した100作品が会場に展示された。この中から、公開講評審査会の当日、審査員が10作品を選出。制作者の学生が作品の計画やコンセプトをプレゼンした。最優秀賞に選ばれた吉村さんは、暗



吉村さんの作品模型

目の開催となる。シンポジウム、公開講評審査会などで構成し、2-4日までの3日間にわたって開催した。

闇の中で過ごすという体験に着目。高い柱と急傾斜の屋根で建物内部に屋根裏のような薄暗い空間をつくり、窓から差し込む光が内部に多様な陰影を描く建築物を計画した。デジタル機器などを通して雑多な情報や強い光に絶えず晒されている日常生活から離れ、視覚情報をあえて制限した空間で『日常の裏側』を演出することがコンセプトだ。

審査員からは「現状に対する疑問を出发点にしつつ、作者の感性が空間に形として現れていて非常に面白い」「まちの周辺とのコンテクストが小さい建築の空間に良く表現されている」「詳細な内容の検討に凄みを感じた」などと非常に高い評価を受けた。表彰式で、吉村さんは「自分の作品に『これでいいのか』と思いつながら向き合ってきた。評価を受けてうれしい。(審査会を経て)足りない部分もあると感じたので頂いた意見などをこれらの糧にしていきたい」と喜びを語った。

このほか、優秀賞には奥田真由さん(法政大3年)の「学び場のらく書き」、藤原彰大さん(慶応大2年)の「Worm Chair」が選ばれた。